

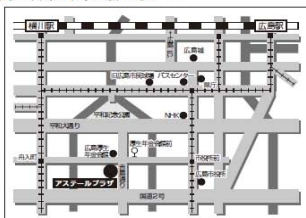
□ プログラム (A4版両面、三つ折り)

プログラム

12:00	開 場
13:00	ドリル演奏 広島県警察音楽隊
13:25	開 会 主催者あいさつ 内閣府 広島県 広島市 来賓紹介
13:45	基調報告 坂本 郷史 (広島県警察本部交通部長)
14:15	基調講演 樋口 進 (独立行政法人国立病院機構 久里浜アルコール症センター副院長)
14:45	休 憩
15:00	パネルディスカッション 【コーディネーター】 金光 義弘 (川崎医療福祉大学学長補佐 文学博士、臨床心理学科長) 【パネリスト】 東 ちづる (女優) 岡村 和子 (警察科学警察研究所交通科学部 交通科学第二研究室主任研究官) 田中 祐太郎 (広島電鉄株式会社取締役 バスカンパニーバイスプレジデント) 東山 良子 (ひろしま家族機能相談所代表) 樋口 進 (独立行政法人国立病院機構 久里浜アルコール症センター副院長)
16:40	閉 会

会場案内

アステールプラザ 中ホール
広島県広島市中区加古町4-17



■会場の有料駐車場には台数に制限がございますので、公共交通機関を利用してご来場下さい。

交通アクセス

JR広島駅からの交通手段

- 市内電車利用の場合
宇品行(紙屋町経由)→市役所前下車(600m)
江波行→舟入町下車(400m)
- バス利用の場合
広島バス24番
吉島営業所または吉島病院行→
厚生年金会館前下車(200m)
- タクシー利用の場合
約15分

お問い合わせ

内閣府/政策統括官(共生社会政策担当)
交通安全対策担当
TEL 03-5253-2111 (内)44193
広島県/広島県環境民局交通安全対策室
TEL 082-513-2723
広島市/広島市道路交通周道局交通安全企画課
TEL 082-504-2122

第29回交通安全シンポジウム

飲んだら、 乗るまえ、 乗らすまえ

～飲酒運転の根絶は あなたから～

開催日 平成21年11月26日(木)
13:00～(開場12:00)

開催地 アステールプラザ 中ホール
広島県広島市中区加古町4-17

主催/内閣府・広島県・広島市

後援/警察庁・文部科学省・厚生労働省・国土交通省
協賛/交通安全シンポジウム推進協議会構成団体
社日本自動車工業会・社全日本交通安全協会
社日本自動車連盟・社共生共栄路上福祉財団
社国際交通安全学会・社日本交通安全教育普及協会
社全国交通安全母の会連合会

メッセージ

コーディネーター 金光 義弘

3年前の夏に起きた福岡での飲酒運転追突転落事故は、幼い命を奪う悲惨な結果を招き、社会的に大きな関心を生じるとともに飲酒運転に対する法的な罰則強化につながりました。しかしながら、いまだに飲酒運転による事故や飲酒運転の摘発は後を絶ちません。この現実を私たちはどのように受けとめ、どのように対処すればよいのでしょうか。

この度の交通安全シンポジウムでは、医療や地域福祉、運輸業界、さらに交通心理学の最前線で活躍される方々と、市民の皆さんに参加していただき、飲酒運転根絶を目指すための方策について知恵を絞りたいと思います。そしてそれに向けて力強い歩みを進める機会にしなければならぬと考えます。

そのための第一歩は、お酒は少量であっても酒気を帯びれば、人の判断や運転には少なからず悪影響が及ぶことの認識が必要です。お酒の楽しみと運転を切り離すことができる良識を持って、「飲んだら、乗るまえ、乗らすまえ」とともに「乗るなら、飲むまえ、飲ますまえ」を合言葉にしたいものです。

基調報告

坂本 郷史/広島県警察本部交通部長



高道道路交通警察部長、歴任定例警察長、中国警区警察学校教頭部長等を歴任し、平成20年3月より現職。昨年の交通安全事故による死者数は128人で、ピーク時であった昭和45年(19人の24.7%)にまで減少した。本年は、高齢者の交通安全助成対策を重点に、きめ細かな交通安全教育・広報啓発や飲酒運転など重大犯罪に直接対応する実質・危険な交通違反に対する取り締り、安全・安心な交通環境の整備等を推進中であり、交通安全事故による死者数及び発生件数の更なる減少を目指している。

基調講演

樋口 進/独立行政法人国立病院機構
久里浜アルコール症センター副院長



昭和54年東北大学医学部卒。米国立保健研究所研究員、国立久里浜病院臨床研究部長などを経て現在に至る。アルコールを初めとする種々の依存性疾患や精神科疾患の影響に加えて、遺伝性疾患や精神疾患の分子生物学的研究、アルコール依存症の予防に関する研究等を行っている。WHO専門医諮問委員、厚生労働省厚生科学審議委員、国際アルコール学会理事・事務局長、アジア太平洋アルコール諮問会議理事・事務局長等を務める。アルコール問題の予防教育で使われるエタノールリッチテストの開発者でもある。

パネルディスカッション

【コーディネーター】
金光 義弘/川崎医療福祉大学学長補佐
(文学博士、臨床心理学科長)



昭和40年京都大学文学部卒。同大学理学博士課程中退。同大学警務学研究所共同研究員、東京都神経科学総合研究所研究員、滋賀医科大学助教授、岡山大学文学部助教授を経て、平成3年川崎医療福祉大学教授に就任。現在に至る。専門は認知・行動心理学、交通心理学、健康心理学で、認知・行動心理学の観点から飲酒運転や運転中の携帯電話の危険、高齢運転者の視野狭窄の問題などの研究を行っている。著書に「事故の心理・安全の心理」(企業開発センター)、「新・心の探検隊」(アカデミア出版)、「警察官の認知行動に関する研究」(風潮書房)などがある。また、主幹総合交通心理士、臨床健康心理士としても活躍しており、平成9年度交通安全賞章十字顕賞を受賞。

パネリスト

東 ちづる/女優



会社員生活を経て芸能界へ。ドラマから、司会、講演、エッセイ執筆など幅広く活躍中。一昨、プライベートでは、自身/バクやあしなが育英会、戦前生誕100年子どもたちを応援し、治療/リハビリの場、向陽に輝く活動を行うドイツのNPO「ドイツ国際平和村」を支援し、精力的にボランティア活動を行っている。著書に、「マリファナと0100」(主婦と生活社)、「わたしたちを惹きつけて」(ドットコム社)、「私にはなにかカンセツを受けたのか」(いん、やめた)「母と娘の絆」(マガジック)等。現在、テレビ朝日系「スーパーモーニング」木曜コメンター、「11ちゃん」(毎日)「そら」(毎日)に出演中。

岡村 和子/警察科学警察研究所交通科学部
交通科学第二研究室主任研究官



平成3年お茶の水女子大学教育心理学(心理学専攻)卒業後、警察科学警察研究所交通科学部交通安全研究室に配属。運転性、高齢者の安全とモビリティ、シートベルト着用行動に関する研究など、運転教育全般に従事。この間、ロンドン大学(Transport)修了。(財)交通安全総合分析センター研究第一課長を歴任。現在は、警察科学研究所交通科学部交通安全科学第二研究室主任研究官(平成17年組織改編による名称変更)。現在、ドイツの大学と共同で、飲酒・薬物運転を中心とした違反運転者の改善、リハビリテーションについて研究を行っている。

田中 祐太郎/広島電鉄株式会社取締役
バスカンパニーバイスプレジデント



昭和54年東海大学文学部卒。同年、広島電鉄株式会社に入社し、整備部門、貸切(バス受注部門)を経て、平成7年に広島市の北部方面ならびに高道バスの管理を行う第二自動車部北営業部長に就任。その後、広島市と郊外を結ぶ路線主幹のマネジメントを行う地域連絡グループマネージャーを経て、平成20年にバスカンパニーバイスプレジデントに就任。現在に至る。この間、平成7年より20年まで広島中央地域交通安全活動推進委員を務めた。また、最近では広島中央警察協議会委員を務めるなど広島における社会活動にも参加している。

東山 良子/ひろしま家族機能相談所代表



平成4年4月からアルコール依存症研究会(現「アドレクションと家族研究会」)主催、平成5年2月からアダルト子ども自立の自助グループ「ADのついで」開設。広島県精神保健福祉センターの職員の仕事として従事していた「アルコール家族教室」を引き継ぎ主催し現在に至る。平成14年7月からエール広島R03号室にて家族教室、自助グループを継続実施。現在、アルコール・ギャンブル・摂食障害の各家族教室、AO・摂食障害者の自助グループを開設。個別の援助として、カウンセリングを実施。「アドレクション」など個人や家族の問題の理解と回復に向けて、援助活動を実施。警察学(精神科医)の講演会、ワークショップなどを実施し「アドレクション」に関する理解を広く地域に向けて発信。